

特集 すぐそこにある自然

住宅都市として発展してきた川西市

仕事や子育てなど慌ただしく過ぎる毎日の中で

身近な自然に気付いていない人も多いのではないのでしょうか

市域を縦断するように猪名川の清流が流れ

住宅街のすぐそばには森が広がります

昔からこの地に根付く草木が育ち、動物や虫が生息

豊かな生態系が維持されています

県や国で絶滅危惧種に指定されているエドヒガンや

ニホンイシガメが見られるのも川西の特徴です

また、市北部の黒川には日本一と呼ばれる里山が今も残り

季節ごとに美しい景色を目にすることができます

住んでいるまちで、自然にふれられる

都会ではかなわないことかもしれません

今回の特集では

市内で目にするのできる自然と

その場所に関わる人をご紹介します

問い合わせ 環境衛生課 ☎(740) 1202



エドヒガン (国崎)



ゲンジボタル



ハナイカダ



アサギマダラ



ジョウビタキ



キンラン



ニホンイシガメ



猪名川へと続く支流 (宇生)



ウキゴリ

人の手が入ってこそ 守られる森や川

20 近くのボランティア団体が
市内各地で環境保全に取り組んでいます

猪名川の生態系を 取り戻す

流域ネット猪名川

代表 水谷信彰さん



猪 名川の河川敷で14年前から活動する「流域ネット猪名川」。特定外来種である大型のツル植物、アレチウリを駆除しています。
「小さいころから魚が大好きで、ずっと川に通っては、水の生き物ばかりを見ていました。以前から、自然のために何かできればとぼんやりとですが思っていたんです。植物のことは流域ネット猪名川で学びました」
同団体に入った2年前から代表を務め、大学に通いながら活動を続けています。
「アレチウリは繁殖力が強く、放っておくと辺り一面を覆い尽くします。日が当たらなくなると、元から生えていた草などが枯れるだけでなく、虫なども減り、生態系が崩れてしまうんです」
作業は冬場を除き、週に1、



1・2_かつては多くのアユが遡上した猪名川
3_アレチウリの果実。
15 個近くの種ができる
4_河原一面にアレチウリが広がる。駆除作業には毎回約 10 人が参加

2回。1回の作業で多いときには50を超えるゴミ袋が積み上がるそうです。
「アレチウリ以外に雑草を抜いたり、間引いたりして、在来種が広がりやすい環境を整えるようにしています。最近ではメハジキやオギなど、今まで芽を出せなかった河原の植物が見つかるようになりました」
同団体では、トライやる・ウィークの受け入れや生き物観察会、外来種問題の啓発活動なども行っています。
「まずは川を身近に感じてもらうことが大切だと考えています。先日、中学2年生の子が入ってくれました。生き物観察会に来ていた友達から話を聞いて興味を持ってくれたそうなんです。若い世代の人が入ってくれるのはありがたいし、うれしいですね」
川の中にも、アカミミガメやアメリカザリガニなどの外来種が多数生息しています。
「できれば水の生き物まで手を広げたいですね。かつてはアユ釣りの人であふれていた、豊かでにぎわいのある猪名川の姿を取り戻せたらと思っています」

市の天然記念物に指定 豊かな森を守る

虫生川周辺の自然を守る会
代表 菅原八重子さん



団地やショッピングモールがあり、住宅が立ち並び清和台地区。そのすぐそばに、貴重な草花などを見ることができます。

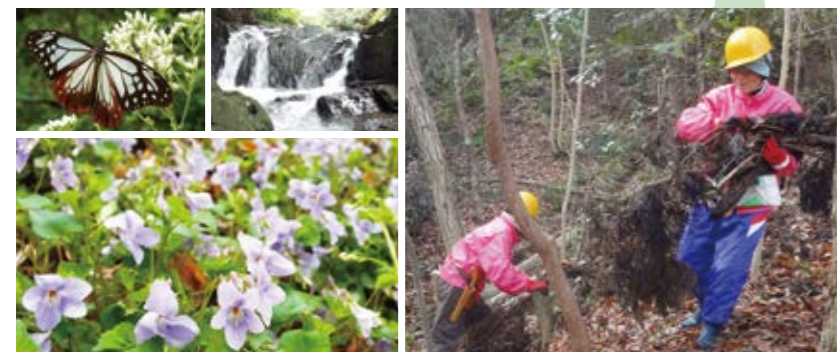
「昔はこの道を通って猪名川によく遊びに行きました。やぶや倒木、ごみなどで足の踏み場もなくなっているのを見て、なんとかしたいなと思ったんです」

整備が進むと、それまで眠っていた草花などが芽を出し、かつての姿を取り戻しつつある「虫生の森」。春になるとシロバナウンゼンツツジが咲き乱れます。

「山道以外は、安全のため立ち入り禁止にしていますが、シロバナウンゼンツツジが咲く時期には皆さんに開放しています」

昨年4月、この森一帯が市の天然記念物として指定されました。

「これまでやってきたことが認められたようでうれしいですね。これからも豊かな森を守っていききたいと思います」



身近に自然を体感できる 場所をめざす

大和フォレストクラブ
会長 井浦澄夫さん



約4,000戸の戸建て住宅が立ち並び大和団地。その一角にある「大和の森」にはクヌギやコナラが立ち並び、秋にはススキが広がります。

「この地域は周りを山に囲まれているのに、公園以外で気軽に自然とふれあえる場所がほとんどありません。近くにそういう場所があればなとずっと思っていました」

森の整備を始めたのは8年前。長年放置され、うっそうとしていた場所を切り開くのに約6年かかりました。近隣の山に生えている植物を参考に、植樹や野草の育成にも着手。中にはこの辺りの地名『畦野』の由来になったナラガシワもあります。

春や秋の気候のいい時期には「森のカフェ」や「散策会」「自然観察会」などのイベントを開催しています。

「地域の人や子どもたちが身近に自然を体感できる。そんな場所をめざしています」



普段の生活から感じる自然

ボランティア団体だけでなく
それぞれの立場で自然の大切さを感じ
動き始めている人がいます

地域に親しまれる 森づくりをめざす

竹中工務店大阪本店
瀬山充博さん



市 中部に研修所がある竹中工務店。敷地内の森林を活用して「清和台の森づくり」を行っています。「この業界は、自然との共存がなければ成り立ちません。事業と関わりの深い自然環境を大切にしたいと、このプロジェクトが始まりました」と話すのは、市在住でプロジェクトにも積極的に関わ



従業員を対象とした研修では、植物観察や植生調査、伐採講習などを体験。人と自然の博物館の協力も得て、森づくりのスキルを学びます。「今まで受けた中で一番楽しい研修だった」という声もありました。体験・体感することで、自然の大切さなどを自分事として捉えることができるんだと思います」

近年は木材を使った建築に積極的に取り組む同社。事業にも新たな広がりが見られています。「地域の人に身近に感じてもらえる森をつくりたい。そのためにも、今後は地域の人も一緒に、森づくりを進めていければと考えています」

川 西には自然がたくさんあって、今思えばいい環境で育ったんだなって、あらためて感じました。部活をやっていたおかげですね」

高校卒業を間近に控える杉浦さん。自然科学部でクヌギの成長に関する研究に取り組んできました。

「先輩が市の特産の菊炭を研究していたんですね。それで、菊炭がクヌギからできて



部活を通じて 身近な自然に気付く

県立川西北陵高校
杉浦菜月さん



「シンポジウムでは、いろいろな話を聞くことができて、自分の身近に、もっとたくさんの自然があるんだなと気付いたのが一番大きかったですね。これまで経験したことを生かして、今後の進路にも役立てたいと思います」

また、昨年11月に開催された市主催の生物多様性ふるさと川西戦略シンポジウムでも研究結果を披露しました。

「シンポジウムでは、いろいろな人の話を聞くことができて、自分の身近に、もっとたくさんの自然があるんだなと気付いたのが一番大きかったですね。これまで経験したことを生かして、今後の進路にも役立てたいと思います」

また、昨年11月に開催された市主催の生物多様性ふるさと川西戦略シンポジウムでも研究結果が評価され、昨年8月に開催された全国高等学校総合文化祭で文化連盟賞を受賞。

いるんだということを初めて知りました。研究では一庫公園で拾ったドングリを使わせてもらったんです」

研究結果が評価され、昨年8月に開催された全国高等学校総合文化祭で文化連盟賞を受賞。

次の世代に 引き継ぐ

自然を守るための戦略を策定
シンポジウムが交流の場に

市 内の自然やそれにつづる文化を次世代に引き継ぎ、共生するために「生物多様性ふるさと川西戦略」を策定しています。生物多様性とは、さまざまな環境の中で、多くの生き物が存在していること。支え合って生きている生き物と環境を守ることが必要です。この戦略には、自然や文化、生物多様性への理解を深めるとともに、守り、育むために必要な行動を掲載。日常生活で取り組める行動も紹介しています。

昨年11月には、生物多様性ふるさと川西戦略シンポジウムを開催しました。里山整備や環境保全を行う事業者と、自然に関わる活動や研究を行う学生などが登壇し、活動内容など発表。市内のボランティア団体や個人などと、情報交換や交流が行われました。



活動に参加する人を募集しています

市内には、環境保全に取り組むボランティア団体が20近くあります。下記以外の各団体の活動内容や問い合わせ先は、環境衛生課または市ホームページへ。

- ▶流域ネット猪名川
✉ suishin2025@gmail.com
- ▶大和フォレストクラブ
代表の井浦さん ☎ (794) 6875
- ▶虫生川周辺の自然を守る会
代表の菅原さん ☎ (799) 1160

生物多様性シンポジウムに参加した各団体へ
覧は市ホームページへ



問い合わせ 環境衛生課 ☎ (740) 1202

生活と密接に関わる 生物多様性

大阪府立大学助教
上田萌子さん

毎 日の食事にどれだけの生き物が関わっているか考えてみてください。普段の生活で意識することはなくても、生物多様性というのは、必ず生活と密接に関わっています。

生物多様性の話をするとき、問題として挙げるのが種の絶滅です。地球の長い歴史の中で、これまでも大量に種が絶滅することはありましたが、何が問題かというと、絶滅のスピードです。

人が生き物のすみかを奪ったり、乱獲したり、外来種を入れたりするなどした結果、ここ数十年という短い期間



で、これまでにない速さで多くの種が失われています。

生き物については、未解明な部分がたくさんあります。ある種が絶滅することで他の種にどんな影響があるかわからない。そんな中で、短期間に多くの種が失われ、生態系のバランスが崩れてしまうことが問題なんです。

川西市には、住宅地の周りに貴重な自然があることに加えて、少し離れたところにも日本一の里山といわれる自然があります。他にもブナ林やエドヒガン群落など、貴重な自然が残っています。

それらは、熱心に活動する市民の皆さんがいることで守られているものであり、これからも残していくべき大切なものだと思います。